

株主メモ

事業年度	2月1日から翌年1月31日まで
定時株主総会	毎年4月
期末配当金受領株主 確定日	1月31日
中間配当金受領株主 確定日	7月31日
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.imura.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話 0120-094-777 (通話料無料)

株式に関する諸手続についてのご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。



環境に配慮し、植物油インキを使用しております。

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しております。

IMURA ENVELOPE CO.,INC.

第70期 中間報告書

2019年2月1日

2019年7月31日

INDEX	
株主の皆様へ	1
連結財務諸表	3
トピック	5
IMURA コラム	6
メモルダーお届けのご案内	7
株式の状況・所有者別状況	9
会社の概要・役員・事業所	10

Imura Report

株式会社 **イムラ封筒** 証券コード3955



代表取締役社長 (CEO) 井村 優

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第70期中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶を兼ね、事業の概況についてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費と設備投資が底堅く推移するなど緩やかな回復基調が続く一方で、米中貿易摩擦の長期化や海外経済の減速による影響が懸念されるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社グループの事業領域に影響を及ぼす郵便およびメール便市場においては、普通通常郵便物は前年比横ばいまで回復するものの、メール便の取扱数量は依然として前年比微減傾向にあり、また、ダイレクトメール市場の動向も引き続き減少傾向にあることから、当社グループを取り巻く環境は厳しい状況で推移いたしました。一方で、通販市場は、アパレル通販や B to B 通販の伸張を背景に堅調な動きを維持しており、包材関連需要の拡大が期待されます。

このような情勢のもと、当社グループは、「**Give&Give&Give**® (全ての人に最高の付加価値を届け続ける)」をテーマに掲げ、お客様に満足いただけるソリューションサービス分野への取り組みを、全社を挙げて進めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比4.9%増の124億68百万円となりました。損益面につきましては、材料価格や運搬費の値上りの影響に加え、本社移転費用も発生いたしました。増収による効果や労務人件費等の固定費の減少で吸収されたことから、営業利益は7億18百万円(前年同期比80.3%増)、経常利益は7億59百万円(前年同期比65.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億96百万円(前年同期比88.3%増)と増収増益となりました。

株主の皆様におかれましては、何卒、今後とも引き続き変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年10月

セグメントの概況

第1四半期連結会計期間より、従来の「封筒事業」セグメントを「パッケージソリューション事業」セグメントに名称変更しております。なお、この名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

パッケージソリューション事業

選挙関連需要の取り込みにより、売上高は96億51百万円(前年同期比1.5%増)と僅かながら増収となりました。損益面では、上述のスポット需要を含む製品売上の伸長や固定費の減少により、営業利益は5億21百万円(前年同期比29.7%増)となりました。

メーリングサービス事業

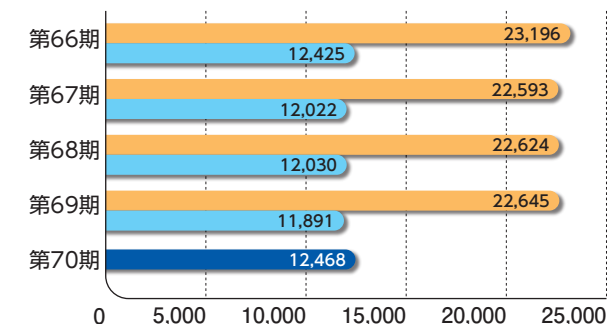
新規取引先の拡大ならびに既存取引先への深耕活動が着実な成果を上げていることに加えて、選挙関連サービスの受託も加わったことから、売上高は19億3百万円(前年同期比22.8%増)となり、営業利益は1億23百万円(前年同期は営業損失36百万円)となりました。

その他

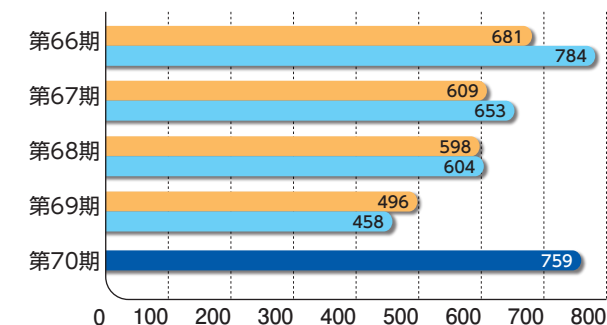
封入機の販売を手掛ける子会社において大型案件の売上が計上されたこと等により、売上高は9億14百万円(前年同期比10.4%増)となり、営業利益は71百万円(前年同期比134.0%増)となりました。

財務ハイライト(連結) ● 通期 ● 第2四半期 ● 当第2四半期

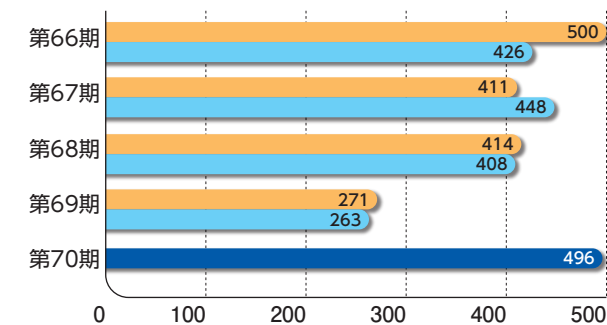
売上高(単位:百万円)



経常利益(単位:百万円)



親会社株主に帰属する純利益(単位:百万円)



連結財務諸表

連結貸借対照表

単位：百万円

科 目	前期末 (2019年1月31日現在)	当第2四半期末 (2019年7月31日現在)
資産の部		
流動資産	8,361	8,491
現金及び預金	2,540	1,850
受取手形及び売掛金	3,652	4,069
電子記録債権	557	709
たな卸資産	1,242	1,370
その他	368	490
固定資産	9,593	9,654
有形固定資産	7,411	7,623
建物及び構築物	1,475	1,532
機械装置及び運搬具	1,813	1,712
土地	3,655	3,655
その他	466	724
無形固定資産	56	53
投資その他の資産	2,125	1,976
投資有価証券	1,027	1,009
その他	1,098	967
資産合計	17,954	18,145

資産の部

受取手形及び売掛金の増加などにより、前期末に比べ1億91百万円増加し、181億45百万円となりました。

(注)「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間および前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

単位：百万円

科 目	前期末 (2019年1月31日現在)	当第2四半期末 (2019年7月31日現在)
負債の部		
流動負債	4,266	4,212
支払手形及び買掛金	1,841	1,272
電子記録債務	957	1,379
その他	1,467	1,560
固定負債	385	388
負債合計	4,651	4,601
純資産の部		
株主資本	12,290	12,633
資本金	1,197	1,197
資本剰余金	1,365	1,366
利益剰余金	9,935	10,287
自己株式	△ 208	△ 218
その他の包括利益累計額	942	861
その他有価証券評価差額金	295	274
退職給付に係る調整累計額	646	586
新株予約権	58	37
非支配株主持分	11	12
純資産合計	13,302	13,544
負債純資産合計	17,954	18,145

負債の部

支払手形及び買掛金の減少などにより、前期末に比べ50百万円減少し、46億1百万円となりました。

純資産の部

利益剰余金の増加などにより、前期末に比べ2億41百万円増加し、135億44百万円となりました。
なお、自己資本比率は前期末に比べ0.7ポイント上昇し、74.4%となりました。

連結損益計算書

単位：百万円

科 目	前第2四半期 (2018年2月1日から 2018年7月31日まで)	当第2四半期 (2019年2月1日から 2019年7月31日まで)
売上高	11,891	12,468
売上原価	9,361	9,493
売上総利益	2,529	2,975
販売費及び一般管理費	2,131	2,256
営業利益	398	718
営業外収益	70	62
営業外費用	10	21
経常利益	458	759
特別利益	13	0
特別損失	138	12
税金等調整前四半期純利益	333	747
法人税、住民税及び事業税	150	201
法人税等調整額	△ 80	48
四半期純利益	263	497
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△ 0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	263	496

■ 配当金について

当期の中間配当につきましては、当初の予定通り見送らせていただくこととなりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科 目	前第2四半期 (2018年2月1日から 2018年7月31日まで)	当第2四半期 (2019年2月1日から 2019年7月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	196	△ 13
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 207	△ 443
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 171	△ 217
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1	0
現金及び現金同等物の減少額	△ 184	△ 674
現金及び現金同等物の期首残高	2,557	2,386
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,372	1,712

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の支出は13百万円となりました。これは主に、資金の増加要因として税金等調整前四半期純利益7億47百万円、減価償却費3億6百万円、資金の減少要因として売上債権の増加額5億69百万円、たな卸資産の増加額1億27百万円、仕入債務の減少額1億47百万円、法人税等の支払額39百万円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金の支出は4億43百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出4億54百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金の支出は2億17百万円となりました。これは主に、自己株式の取得による支出58百万円、配当金の支払額1億43百万円によるものです。

2019年7月、 お客様向けサービスサイト 「Rmitp[®]」を リニューアル

Renewal!

Rmitp[®]

=Real Media Information Transmission Platform

リニューアル
サイトへは
こちらから!



▶ <https://service.imura.co.jp/>

「Rmitp[®]」…私たちのできること、全てをここに集約いたしました。

戦略ツールとしての可能性をますます広げる"封筒"。このニーズに応えるため、私たちは「100年におよぶ経験とノウハウ」を結集し、封筒制作・製造のみならず、封入・保管・配送にいたる多彩なソリューションをワンストップで提供してまいりました。

「Rmitp[®]」は、様々なビジネスシーンにおけるコミュニケーションをお手伝いするためのお客様向けサービスサイトです。

引き続き、次代を担うリーディングカンパニーとしての当社にご期待ください。ワンランク上の封筒・DMで企業様の営業力をサポートいたします。

イムラ封筒の強み
生産力+技術力+提案力

サービス一覧
SERVICE LIST

作りたい	送りたい	その他
オリジナル封筒/DM制作 経包装材シリーズ 開封したくなる封筒 高級感を演出するエンボス加工 中身が見える封筒 書類を保管する袋 情報を守る封筒 環境に配慮した封筒 社会貢献・バリアフリー メモルダ 紙ファイル VRペーパー・ゴーグル 各種手付け袋・用途別袋 デザイン実績	封入/発送の代行 封入代行 フィルムラッピング 選択封入(セレクト封入) 在庫保管～梱包発送までワンストップで	発送代行 発送料金の削減について 企画から制作、封入・発送までをワンストップで対応

既製品ラインナップ

ニッポン 「近代郵便」始め

郵政博物館の収蔵品から

第1回

全国どこでも 均一料金で送達できる 郵便制度の礎を築いた 前島 密



私たちが今、手軽に利用している郵便は、明治時代に入ってまもなくの1871年に始まりました。新コラムでは、それから約150年間の郵便の歴史にまつわる、さまざまな物語をご紹介します。第1回は「郵便」や「切手」という用語の生みの親でもある前島密の功績です。



1875年1月、外国郵便も取り扱われるようになった横浜郵便局の開業式。主催者の前島密もこの中に描かれている。

1円普通切手でおなじみの前島密は、幼い頃から志高く、わずか12歳でオランダ医学を学ぶために、単身で江戸に出ています。18歳の時に黒船とアメリカの使節団に間近で接する機会を得て、国防の重要性を認識。私費で全国の港湾を視察して回るなど、若い頃から国づくりを意識していた人物のようで、のちに明治政府に請われて、近代国家を建設するための企画立案に携わるようになりました。

郵便事業の創業も、前島密が手がけた国家事業のひとつです。水陸運輸駅路や通信の管理を担う役所・駅通司で長官を務めていた時に、政府が官用通信のために飛脚に支払っていた高額な金額に驚き、それを資金にすれば新たな郵便事業を立ち上げることができると考えました。目指す姿は、国内に広く誰でも自由に利用できる通信制度でしたが、まずは東海道筋に郵便役所や郵便取扱所を設け、東京～大阪間を78時間で毎日往復する郵便制度を立案しています。

立案後に駅通司での任を解かれ、イギリスに渡りましたが、そこで先進の郵便事業を視察。帰国後、自ら希望して駅通寮の長官となり、書状だけではなく新聞や雑誌なども取り扱いできるようにしたほか、全国に郵便網を整備。国内同一料金で送達する均一料金制を導入しました。

こうした功績から「日本近代郵便の父」と讃えられる前島密は、ちょうど100年前の1919年4月27日に84歳でその生涯を閉じています。

資料提供・監修
郵政博物館

東京都墨田区押上1-1-2 東京スカイツリータウン・ソラマチ9F
TEL:03-6240-4311 <https://www.postalmuseum.jp/>

メモルダ―お届けのご案内

お申込みはがきを
ご返送いただいた株主の皆様へ

2020年版メモルダ―をお届けいたします。

株主様の日頃のご支援に感謝し、今年も当社オリジナル商品のポケット付きカレンダー「メモルダ―」をお届けいたします。好きなメモルダ―をお届けいたしますので、同封のお申込みはがきにてご希望をお知らせください。

「メモルダ―」のお届けは、7月31日現在の株主名簿に記載または記録された**1単元(100株)以上**ご所有、かつお申込みはがきをご返送いただいた株主様に限らせていただきます。何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。

お申込み方法

1単元(100株)以上ご所有の株主様には、お申込みはがきを同封しておりますので「お名前」「電話番号」「株主番号」「ご希望の商品番号(1~5の中から1点)」をご記入のうえ、ご返送ください。

お申込み受付期限 ▶ 2019年10月末日(当社到着分)

お届け ▶ 2019年12月上旬の予定

はがきのご返送がない場合はお送りいたしませんので、何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。なお、特にご指定のない場合は**[1.実用メモルダ―]**をお届けいたします。

商品番号

1

実用メモルダ―

六曜・旧暦もわかる超人気商品



見開きサイズ : 245×443mm

ポケット数 : 12枚

カラーユニバーサルデザイン認定製品※1

※1. 色覚の多様性に配慮し、平日と休日の区別がしやすいよう、色づかいを工夫しています。



壁掛

六曜
旧暦二十四
節気

商品番号

4

卓上メモルダ―

実用性が高い卓上タイプ



前月・翌月・翌々月
カレンダーがついています

サイズ : 185×138mm

ポケット数 : 13枚(有効数12枚)

カラーユニバーサルデザイン認定製品※1



卓上

商品番号

5

ナチュラル卓上メモルダ―

素朴な風合いが人気



前月・翌月・翌々月
カレンダーがついています

サイズ : 185×138mm

ポケット数 : 13枚(有効数12枚)



卓上

環境に配慮した
紙素材リングを採用

裏面にはポケットと
メモに使えるフリース
ペース

株式の状況・所有者別状況

株式の状況

(2019年7月31日現在)

発行可能株式総数 **38,000,000株**発行済株式の総数（自己株式
429,479株を含む） **10,729,370株**株主数（前期末比102名減） **1,985名**

大株主

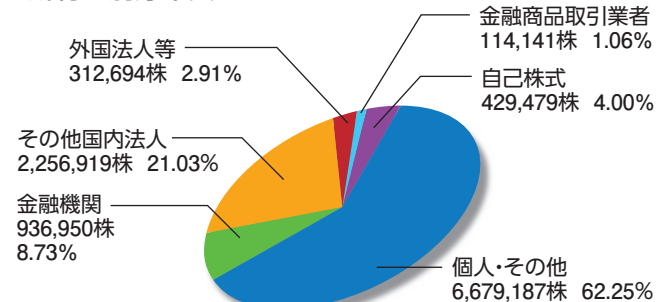
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
イムラ封筒社員持株会	775,752	7.53
井村 優	424,400	4.12
有限会社ケイ・アンド・アイ コーポレーション	385,250	3.74
井村 達男	367,000	3.56
有限会社アイ・エム興産	358,750	3.48
井村 守宏	326,400	3.16
井村 美和	300,000	2.91
日本紙パルプ商事株式会社	300,000	2.91
井村 光一	288,400	2.80
井村 美保子	254,500	2.47

(注) 1. 当社は自己株式を429,479株保有していますが、上記大株主からは除いております。
2. 持株比率は自己株式数(429,479株)を控除して算出しております。

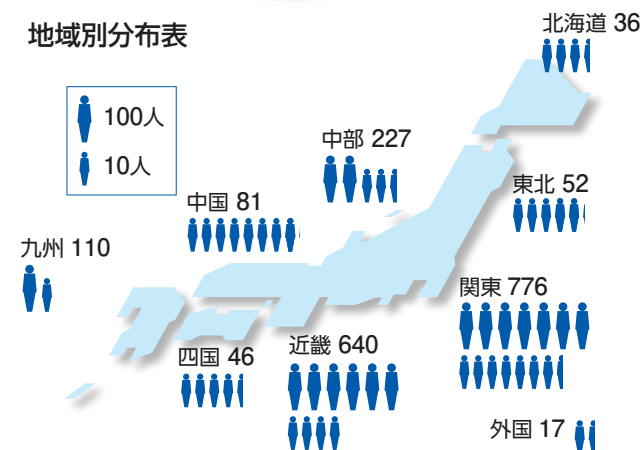
所有者別状況

(2019年7月31日現在)

所有者別分布表



地域別分布表



イムラだからできる、企業のトータルビジネスサポート。

独創的な商品を生み出す封筒事業から、メーリングサービス、ITシステム提案まで。イムラ封筒はビジネスコミュニケーションをトータルサポートします。

メーリングサービス事業

封筒の新しい価値をお客様に提案するサービスです。各種DMの企画から宛名印刷・封入・加工・発送、顧客リスト管理まで総合的なビジネスサポートを実現。お客様のコミュニケーション活動の効率化やコストダウンを強力に支援します。

封筒事業

数々の新商品を提案する開発力と、ロットの大小に関わらず常に安定した品質を低コストで提供する生産力、お客様のニーズに迅速・的確に 대응する機動力を備えています。コミュニケーションの可能性を追求し続けるイムラ封筒のコア事業です。

情報システム事業

IT分野でも、イムラ封筒は社会に貢献しています。お客様のニーズやビジネススタイルに最適なシステムやソフトウェアを提供。お客様利益を常に最優先する姿勢はこの分野でも貫かれています。

Total
Business
Support

会社の概要・役員・事業所

会社の概要

(2019年7月31日現在)

商号	株式会社イムラ封筒 (英文名:IMURA ENVELOPE CO.,INC.)
本店	〒542-0076 大阪市中央区難波五丁目1番60号 なんばスカイオ18階 電話(06)6586-6121 (代表)
創業	大正7年7月
設立	昭和25年2月
資本金	1,197,986,033円
事業内容	1. 封筒、袋などの紙製品、文具の製造、販売及び事務用品、日用雑貨品の販売 2. 不織布、合成樹脂シートを素材とする封筒、袋類、建築・造園資材の製造、販売 3. 印刷物などの物品の保管、封入、包装、梱包及び発送業務の代行 4. 倉庫業 5. 印刷、封入及び包装用機械の企画、研究開発、製造、販売及び輸出入 6. ダイレクトメールの発送及び請求書の発行等に関する情報処理業務の受託 7. 広告代理業務 8. コンピュータ及び周辺機器、事務用機器の販売、教育指導及び保守管理 9. コンピュータソフトウェアの企画、開発、制作、販売及び保守管理 10. インターネットへの接続サービス業務 11. 電気通信工事業 12. 医療用事務機器及び資材の販売 13. セミナーの企画、立案、制作、斡旋及び運営 14. 前記各号に付帯する一切の業務
従業員数	連結 891名 単体 825名 (2019年7月31日現在)
子会社	東杏印刷株式会社 株式会社メトロテック

役員

(2019年7月31日現在)

取締役会長	井村 守宏
代表取締役社長(CEO)	井村 優
取締役専務執行役員	瀧口 斉
取締役専務執行役員	吉川 伸昭
取締役常務執行役員	食野 直哉
取締役(社外)	白田 敬
取締役(社外)	城谷 満江
監査役(常勤)	福塚 昌義
監査役(社外)	山田 拓幸
監査役(社外)	清水 健一
上席執行役員	前田 晋二
上席執行役員	炭家 裕之
上席執行役員	山田 実
上席執行役員	森田 旭
執行役員	根岸 秀尚
執行役員	下鳥 義明
執行役員	分領 雅之
執行役員	奥谷 勇二

事業所

(2019年7月31日現在)

